

和歌山労災病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を行っています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。また、研究への拒否の意志を表示されても、いかなる場合でも不利益をこうむることはありません。

研究課題名	撮像データに基づく、パーキンソン病患者の姿勢障害に対するイストラデフィリンの影響の検証（後ろ向き観察研究）
当院の研究責任者 （所属）	檜皮谷 泰寛 （労災病院 脳神経内科 部長）【伊藤岳人1】【梶本賀義2】
他の研究機関および 各施設の研究責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・【研究代表者】日本赤十字社 大阪赤十字病院 脳神経内科 主任部長 高橋 牧郎（現 田附興風会医学研究所 北野病院） ・独立行政法人 労働者健康安全機構 和歌山ろうさい病院 脳神経内科 部長 梶本 賀義（現 和歌山県立医科大学附属病院 紀北分院） ・公立大学法人和歌山県立医科大学 臨床研究センター 教授 下川 敏雄 ・公立大学法人和歌山県立医科大学 脳神経内科学講座 教授 伊東 秀文 ・社会医療法人寿会 富永病院 副院長 竹島 多賀夫 ・日本赤十字社和歌山医療センター 脳神経内科 部長 山下 博史 ・協和キリン株式会社 メディカルアフェアーズ部 部長 佐藤 光男
本研究の目的	本研究は、『パーキンソン病患者の姿勢障害に対するイストラデフィリンの臨床研究（介入研究）』において取得された患者さんの撮像データ（写真）を用い、姿勢障害を姿勢の傾き（角度データ）を解析することによりレボドパ含有製剤で治療中にウェアリングオフ現象を有し、姿勢障害を併発しているパーキンソン病患者さんにおけるイストラデフィリンの姿勢障害への効果の臨床的意義を撮像データから検証します。取得した撮像データを元に、姿勢障害に関する頸部・体幹（正面像、側面像）の角度データと臨床的所見との関連性およびイストラデフィリンによる改善効果について検討します。
調査データ該当期間	2016年7月～2019年1月
研究の方法 （使用する試料・情報等）	<ul style="list-style-type: none"> ●対象となる患者さま 2016年7月～2019年1月に上記の研究機関において、「パーキンソン病患者の姿勢障害に対するイストラデフィリンの臨床研究（介入研究）」に参加された患者さま ●利用する試料・情報 診療記録、検査データ（疾患の症状評価、立位全身の撮像（正面像、側面像の写真）データ）
試料／情報の 他の研究期間への提供 および提供方法	提供は行わない
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者さんを直接特定できる個人情報には削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 （利益相反）	協和キリン株式会社

<p>お問い合わせ先 【伊藤岳人3】【梶本賀義4】</p>	<p>電話：073-451-3181 担当者：脳神経内科 檜皮谷泰寛 和歌山県立医科大学附属病院 紀北分院 梶本賀義</p>
<p>備考</p>	<p>本研究は、代表施設である北野病院の倫理審査委員会で承認されている。</p>